

3. 立地及び施設・設備、運営主体に関する調査検討

(1) キャンパス立地の検証

キャンパス立地の調査検討

1) キャンパスの概要、法規制

県立保健医療大学のキャンパス立地に係る検討は、現校地である幕張キャンパスと仁戸名キャンパスを対象として検討する。



① 幕張キャンパス

拡大図 	
住所	千葉県千葉市美浜区若葉2丁目-10-1
敷地面積	約 43,300㎡ (43,305.53㎡)
最寄り駅	JR幕張駅、JR海浜幕張駅、京成幕張駅（各駅から徒歩15分）

バス	路線バス
前面道路(接道の確保)	あり
区域区分	市街地区域
用途地域	第二種住居地域
高度地区	第一種高度地区
特別用途地区	幕張新都心文教地区
建ぺい率	60.0%
容積率	200%
日影規制	あり 敷地境界から5m-10m、4時間 敷地境界から10m超、2.5時間 平均地盤面からの高さ、4m
道路斜線	1.5L
隣地斜線	20m+1.25L
北側斜線	なし (高度地区の規制にあり)
その他高さ制限	第一種高度地区、最高高さ31m 北側斜線 境界から4m以内、5m+1.25L 境界から4m超、10m+0.6L
文化財保護法 埋蔵文化財	なし
ハザードマップ確認	大きな被害の予測なし
留意事項	● 千葉市幕張新都心文教地区建築条例の適用 建築物の建築制限:教育・学術を目的とする建築物以外は建築できない 建築物の敷地面積の最低限度:1,000㎡以上

② 仁戸名キャンパス

現在の保健医療大学校舎敷地（約 15,000 m²）と旧保健医療大学校跡地を併せた約 34,000 m²に加え、県立消防学校跡地（約 39,000 m²）が利用可能。

拡大図	
住所	千葉県千葉市中央区仁戸名町645-1、666-2 千葉県千葉市中央区花輪町111ほか
敷地面積	約73,000m ²
最寄り駅	JR鎌取駅より3.1km(がんセンターまで路線バス有り) 京成線大森台駅より約2.4km
バス	千葉駅より路線バス有り(がんセンターまで)
前面道路(接道の確保)	あり
区域区分	市街化区域
都市計画法 開発行為の許可	必要となる可能性あり 造成工事や道路整備により開発許可が必要となる
用途地域	第二種中高層住居専用地域
建ぺい率	60%
容積率	200% (前面道路幅員による容積率算定に注意、仮に前面道路幅員が4mの場合容積率160%が上限)
日影規制	あり 敷地境界から5m-10m、4時間 敷地境界から10m超、2.5時間 平均地盤面からの高さ、4m
道路斜線	1.25L
隣地斜線	20m+1.25L
北側斜線	なし (高度地区の規制にあり)
その他高さ制限	第一種高度地区、最高高さ20m 北側斜線 境界から4m以内、5m+1.25L 境界から4m超、10m+0.6L
その他の規制	宅地造成等規制区域(宅地造成等規制法)
文化財保護法 埋蔵文化財	あり
ハザードマップ確認	大きな被害の予測なし

留意事項	● 高度地区の最高高さ制限の適用除外について 国又は地方公共団体が所有または維持管理(地方自治法第244条の2第3項に規定する指定管理者による管理を含む)する建築物の場合、最高高さ制限を適用除外とできる。 ● 現状では建築基準法に規定されている接道が仁戸名の森に面した道路のみ。淑徳大学と千葉県がんセンターの間にある通路を建築基準法の道路として整備するなど、更なる接道の確保が必要と思われる。 ● 淑徳大学と千葉県がんセンターの間にある通路を建築基準法の道路として整備する場合、大網街道の交差部分は樹木があり見通しが悪い上に信号がなく出入りしづらい。信号機の設置の条件に「隣接する信号機との距離が150m以上」との指針があるが、すでに150m以内に信号機が設置されている。
------	--

2) キャンパス立地案の比較検証

現状のキャンパス立地（2 キャンパス利用）

- ・看護学科、栄養学科、歯科衛生学科の1年生～4年生及びリハビリテーション学科の1年生・2年生（640人）が幕張キャンパスを利用し、リハビリテーション学科の3年生・4年生（100人）が仁戸名キャンパスを利用している。
- ・リハビリテーション学科の1年生は週に1日、2年生は週に2日仁戸名キャンパスにて授業を受講している。

2 キャンパス立地の課題（教職員ヒアリング、在学生・卒業生アンケートより）

- ・教育面、学生生活面からリハビリテーション学科の教員・学生の上に負担を強いている状況となっている。
- ・保医大の特色である保健医療職連携の教育について、4年間を通じた教育デザインができない。（リハビリテーション学科の3、4年生が参加できない。）
- ・リハビリテーション学科のみキャンパス移動があり、学生の負担・不満が大きい、他学科は関心が低い。（公共交通機関使用片道約1時間 540円）
- ・リハビリテーション学科の教員研究室は仁戸名にあるため、幕張キャンパスにいる1・2年生は学科専任教員との日常的な交流が少なく、高学年との交流も少ない。
- ・リハビリテーション学科の学生はキャンパス移動があり課外活動が継続しにくい。
- ・事務職員配置について、仁戸名キャンパスには専任職員の配置がない。

キャンパス立地案の検証

保医大の機能強化を見据えて今後整備すべきキャンパス機能を検討した。
機能強化の具体的内容は資料4の組織構成案の通りである。

【学部】健康科学部

看護学科定員増・リハビリテーション学科新専攻設置に対応

【大学院】

保健医療学研究科（修士課程）の設置

将来的な公衆衛生学専攻（MPH：Master of public health）設置

将来的な博士後期課程設置

【その他機能】

（仮称）デジタルヘルスサイエンスセンター

（仮称）スキルアップ教育支援センター（リカレント教育）

（仮称）ヘルスイノベーションリサーチセンター（健康政策研究所（シンクタンク））

保医大において強化された機能を十分に発揮するため、現状の課題や今後の拡張性をふまえた立地案を検討する。（資料6－1）

○A案 幕張キャンパス統合

- ・アクセス至便・学術研究環境良好な都市型キャンパス
- ・学生募集に有利（競合する近県の保健医療系公立大学における立地の優位性）
- ・1キャンパス統合することで連携教育が円滑になり、学生の不平等感が解消
- ・学生・教職員のキャンパス往復の負担がない
- ・1キャンパスとすることで管理運営が効率化
- ・将来的な施設の維持管理費の削減

○B案 仁戸名キャンパス統合

- ・保医大校地に加え、隣接県有地も活用した大型キャンパスが可能
- ・大規模病院に隣接したキャンパス
- ・県衛生研究所とも隣接し、連携しやすい
- ・未利用の県有地を最大限活用し、例えば健康づくりを目的とした公園を整備するなど、大学の取組と関連した施設を設置することも考えられる
- ・1キャンパス統合することで連携教育が円滑になり、学生の不平等感が解消
- ・学生・教職員のキャンパス往復の負担がない
- ・1キャンパスとすることで管理運営が効率化
- ・将来的な施設の維持管理費の削減

○C案 2 キャンパス現状維持

- ・現状の教育研究環境を継続
- ・現状と同様、リハビリテーション学科の学生・教職員がキャンパスを往復（公共交通機関利用片道約1時間 540円）

○D案 2 キャンパス機能再編

学部教育・大学院本部は幕張キャンパスへ統合

地域連携・社会人教育機能を仁戸名キャンパス

- ・学部学生は幕張のアクセス至便・学術研究環境良好な都市型キャンパス活用
- ・学生募集に有利（近隣の保健医療系公立大学における立地の優位性）
- ・学部教育は1キャンパス統合で保医大の特色である保健医療職の連携教育が円滑になる
- ・学生の不平等感が解消
- ・仁戸名キャンパスは社会人教育を実施し、近隣病院等を臨床研究のフィールドとして地域連携を図る。
- ・仁戸名に大学院のサテライトキャンパスを設け、近隣病院等で勤務する保健医療職の通学の便を図る。
- ・一部教員が大学院教育や研修指導のためにキャンパスを往復（高速道路利用片道約30分）

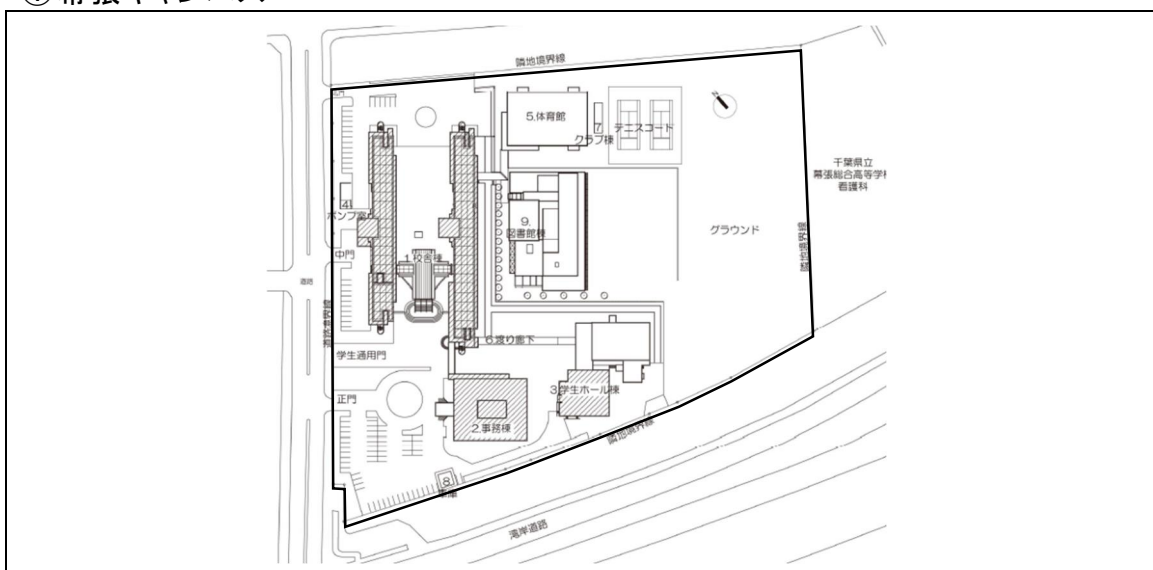
(2) 施設・設備の整備に関する調査検討

校舎の現状

幕張キャンパスの校舎は昭和 55 年築の県立衛生短期大学時代の校舎を継続して利用しており、大学設置時に図書館棟が新築され、大学設置後に更衣室棟が新築された。仁戸名キャンパスの校舎は平成 2 年築の県立医療技術大学校時代の校舎を継続して利用しており、大学開設時に研究棟が新築された。

千葉県立保健医療大学の建物概要

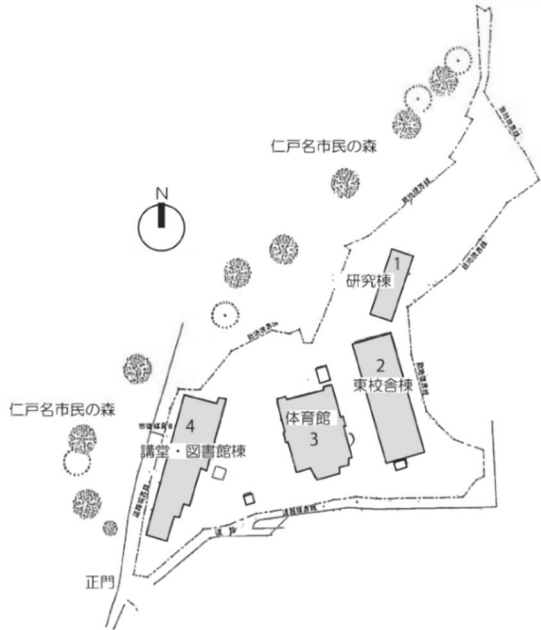
① 幕張キャンパス



A棟 (歯科・栄養棟)	鉄筋コンクリート造 地上4階建 延床面積 4,183.53㎡ S55築(耐用年数残4年)	左記校舎 延床面積 合計 13,683.88 ㎡	左記建物 延床面積 合計 15,449.32 ㎡
B棟 (看護棟)	鉄筋コンクリート造 地上4階建 延床面積 4,179.59㎡ S55築(耐用年数残4年)		
管理棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 1,859.60㎡ S55築(耐用年数残7年)		
学生ホール棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 888.30㎡ S55築(耐用年数残0年)		
図書館棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 2,330.96㎡ H20築(耐用年数残35年)		
更衣室棟	軽量鉄骨造 地上2階建 延床面積 241.90㎡ H24築(耐用年数残15年)		
講堂棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 657.41㎡ S55築(耐用年数残0年)		

体育館	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 1,108.03㎡ S58築(耐用年数残6年)	
その他の附属建物など	渡り廊下 ポンプ室	

②仁戸名キャンパス

			
東校舎	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 2,593.98㎡ H2築(耐用年数残14年)	左記校舎 延床面積 合計 4,451.60㎡	左記建物 延床面積 合計 5,568.60 ㎡
講堂・図書館棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積 1,453.23㎡ H3築(耐用年数残18年)		
研究棟	金属造 地上1階建 延床面積 404.39㎡ H21築(耐用年数残23年)		
体育館	鉄筋コンクリート造 地上1階建 延床面積 1,117.00㎡ S47築(耐用年数残0年) ※現在使用不可		
その他の附属建物など	東校舎ポンプ室棟		

機能強化に必要な施設・設備の検討

施設設備の整備・充実の方向性

保健医療大学の機能強化に必要な施設設備の整備・充実の方向性について検討する。

- ・看護学科定員増・リハビリテーション学科新専攻設置に対応した学内実習室、講義室の拡張・整備
- ・連携教育に対応した多目的演習室の整備
- ・卒業研究・大学院生指導に対応した小規模演習室（ゼミ室）の整備
- ・デジタル教育の充実に対応した情報処理演習室・設備・機器の整備
- ・学生の多様な学習環境の整備（ラーニングコモンズ、グループ学習施設、学生自習室、大学院生研究室等）
- ・教員組織拡大に対応した教員研究個室の整備
- ・教員共同研究・実験施設、設備の整備
- ・公衆衛生大学院の研究施設・設備の整備
- ・キャンパスアメニティの充実（屋内・屋外の憩い・交流の場、ラウンジ、食堂・カフェテリア、課外活動施設等）
- ・事務局機能の充実に必要な教育研究支援システムの整備
- ・学生・教職員の健康維持管理に重要な空調システムの整備
- ・学習・研究支援に必要な情報システムの整備
- ・学内の歯科診療所への地域住民のアクセスや学内バリアフリーへの対応
- ・専門職支援に向けた研修施設の整備

施設整備の規模

保健医療大学の機能強化にあたり、必要な施設整備の規模について検討する。

- ・看護学科の入学定員を現在の 80 名から 100 名へ増加すると共に、講義室・実習室の規模・機能を見直して想定
- ・リハビリテーション学科に言語聴覚療法学専攻（入学定員 25 名）を設置し、必要な教室・実習室を想定
- ・大学院は保健医療学研究科保健医療イノベーション専攻修士課程（入学定員 10 名）から順次設置し、将来的な博士後期課程（入学定員 5 名）、公衆衛生学専攻（MPH 養成）（入学定員 10 名）設置まで想定
- ・教員数について、現在の各学科の ST 比（教員 1 名あたり学生数：数値が低いほど教員配置が充実）を維持しつつ、看護学科定員増・言語聴覚療法学専攻新設・大学院公衆衛生学専攻設置に対応する場合、専任教員数は現在（2024 年 10 月）の 83 名から最大 111 名へ増加と想定（うち大学院公衆衛生学専攻は 12 名）

- ・機能強化の各センター機能は既存施設を活用しつつ、(仮称) デジタルヘルスサイエンスセンターの必要機能として情報処理演習室とサーバールームを増設
- ・階段・廊下・トイレ等その他共通的に整備する諸室の面積として、一般的に必要な諸室面積の 30%程度と想定
- ・幕張キャンパス統合の際は図書館及び体育館は既存施設活用、仁戸名キャンパス統合の際は幕張と同規模の図書館を含めて新築、体育館は既存施設改修活用
- ・幕張キャンパス統合の場合、機能強化に必要な保医大建物規模は約 22,300 m²
- ・仁戸名キャンパス統合の場合、上記に図書館約 700 m²を加え、約 23,000 m²
- ・上記は既存の教育研究施設を建替えた場合であり、既存施設を改修して活用する場合は別途検討する。
- ・なお、上記機能強化に必要な面積や後述の建物配置案には含めていないものの、参考として別途、将来的な機能強化案として提案されたデジタルヘルスサイエンス学科及び食品栄養科学科を設置する場合の必要施設の規模を検討する。
- ・デジタルヘルスサイエンス学科（入学定員 80 名、専任教員数 21 名と想定）は、既設講義室、(仮称) デジタルヘルスサイエンスセンターの情報処理演習室とサーバールームを共用することし、新たに専用演習室と講義室、教員研究室、地域連携研究室、学科会議室、学生交流スペース等を整備することとして、約 2,230 m²
- ・食品栄養科学科（入学定員 25 名、専任教員 10 名と想定）は、既設講義室、実習室、共同研究・実験施設を共用することし、新たに専用実験実習室と講義室、教員研究室等を整備することとして、約 1,130 m²

機能強化にあたり必要となる諸施設

機能	幕張 既存施設	仁戸名 既存施設	機能発揮に必要な 施設面積	備考
健康科学部			看護学科入学定員 80→100 言語聴覚療法学専攻(25)を新設 収容定員は 740→900	
教室関係機能	m ²	m ²	m ²	
講義室	1,719.0	312.0	2,700.0	1～3 年 675 人
演習室	678.0	84.0	900.0	
実験・実習室	3,058.0	1,304.0	5,225.0	
更衣室	241.9	61.0	400.0	
ラーニングコモンズ			500.0	教員数 83→99(最大) 個室(25 m ²)60 名分
個人研究室	1,598.0	290.0	1,800.0	
共同研究室			400.0	共同 30～40 名分
ホール(大講義室・講堂)	426.0	564.0	450.0	

交流（食堂・売店・カフェ・ラウンジ等）	254.0	239.0	500.0	
管理 事務室・会議室・学長室・医務室等	2,104.0	198.0	2,500.0	
図書館	741.0	458.0		既存活用
体育館	1,108.0			既存活用
大学院 保健医療学研究科 M(10)・D(5) 公衆衛生学専攻 M(10)				
保健医療学研究科				講義室・演習室は学部と共用
院生研究室			200.0	40 名分（M20 名、D15 名、+5 名）
共同研究・実験施設			1,000.0	
公衆衛生学研究科(MPH)				
院生研究室			100.0	20 名分
教員個人研究室			300.0	個室(25 m ²) 12 名分
機能強化				
(仮称)デジタルヘルス サイエンスセンター (仮称)ヘルスイノベーション リサーチセンター (健康政策研究所) (仮称) スキルアップ・ 教育支援センター (就職支援機能) (卒業生支援機能) (地域連携・社会人教育 機能)			200.0	情報処理演習室・サーバ ルーム 大学院と共用 幕張キャンパスでは図書 館棟で対応
計	1,927.9	3,510.0	17,175.0 m ²	
その他階段、廊下、トイレ等(約 30%と想定)			5,152.5 m ²	
合計			22,327.5 m ²	

(参考)将来的な機能強化に必要な諸施設(デジタルヘルスサイエンス学科)

機能	機能発揮に必要な 施設面積	備考
教室関係機能	m ²	
講義室	320.0	100 名規模 2 室、 地域連携研究室(企業連携等)含む 個室(25 m ²) 14 名分 共同 7 名分
演習室	720.0	
個人研究室	350.0	
共同研究室	70.0	
交流 (ラウンジ等)	200.0	
管理 会議室	50.0	
計	1,710.0 m ²	
その他階段、廊下、トイレ等	513.0 m ²	(約 30%と想定)
合計	2,223.0 m ²	

(参考)将来的な機能強化に必要な諸施設(食品栄養科学科)

機能	機能発揮に必要な 施設面積	備考
教室関係機能	m ²	
講義室	200.0	60 名規模 2 室 準備室を含む 個室(25 m ²) 7 名分 共同 3 名分
実験・実習室	400.0	
個人研究室	175.0	
共同研究室	30.0	
交流 (ラウンジ等)	60.0	
計	865.0 m ²	
その他階段、廊下、トイレ等	259.5 m ²	(約 30%と想定)
合計	1,124.5 m ²	

キャンパス立地案毎の建物配置案

各敷地にて建替え・改修した場合の建物配置計画案を検討し、特徴や課題、懸念事項を抽出する。

A—1案 幕張キャンパス統合・大規模新校舎へ建替え

計画案の概要、規模や工事の考え方

- 計画案の概要
 - ・学部教育、大学院教育、地域連携・社会人教育機能をすべて幕張キャンパスに統合する。
 - ・グラウンド部分に大規模新校舎を建設し、アプローチ部分に位置する更衣室棟、老朽化した教育棟、管理棟、学生ホール棟、講堂は解体する。
 - ・幕張キャンパス既存建物のうち図書館棟は図書館及び機能強化センター機能として活用、体育館は耐震改修の上活用
- 建物規模の設定
 - ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。
- 既存建築物の延べ面積
図書館棟約2,331㎡+体育館約1,108㎡=約3,440㎡
- 大規模新校舎整備面積
約22,330㎡を想定する。
鉄筋コンクリート4階建て(建築面積約6,000㎡)
- 既存建物を運用しながらの建替えのため、教育研究への影響が少ない場所を用地とし、現機能が維持出来るように配慮する。
学生ホール棟、講堂解体跡地及びグラウンド部分を大規模新校舎建設用地とし、教育棟・管理棟解体後跡地を空地やグラウンドとして整備する。

配置案



ボリューム案



特徴、課題、懸念事項

- 既存施設の課題をすべて解決し、充実した実習設備・機器及び十分な広さを備えた実習室・講義室等を新規整備することができる。
- 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。
- 学部 of 教育研究機能、大学院機能、事務局・管理機能をまとめて新校舎に整備することにより、効率的な管理運営が可能。
- 既存施設での教育研究からの移行がスムーズ。
- 新校舎の建設場所が奥まることで、校舎へのアプローチに工夫が必要。
- 車道に接する部分に空地が多くなり、将来的な計画活用の余地を残しつつ地域に開かれたキャンパス環境の整備が可能。

スケジュール

学生ホール棟、講堂、更衣室棟 解体（教育棟側に仮設更衣室・教室設置）
 ↓
 新校舎（大規模棟・中規模棟）建設・体育館耐震改修工事
 ↓
 全ての学科、機能 移転
 ↓
 教育棟（A棟、B棟）、事務棟 解体
 ↓
 外構工事

A-2案 幕張キャンパス統合・現校舎大規模改修＋中規模新校舎増築

計画案の概要、規模や工事の考え方

●計画案の概要

- ・学部教育、大学院教育、地域連携・社会人教育機能をすべて幕張キャンパスに統合する。
- ・老朽化した既存建物の大規模改修を行い、幕張キャンパスの新たな機能である大学院及びリハビリテーション学科の教育研究及び看護学科の定員増に対応し、必要な設備を備えた新校舎を増築。
- ・幕張キャンパス既存建物のうちA棟(歯科・栄養棟)は、定員増がないため基本的に既存の実習室を活用。課題である狭隘な講義室は大学院生研究室とするなど、各室の用途や間仕切りを調整。エレベーターを設置してバリアフリー対応を行う。
- ・B棟(看護棟)は、共用講義室・演習室及びリハビリテーション学科の教室・実習室・研究室へ改修。図書館棟は図書館及び機能強化センター機能として使用、管理棟、講堂、学生ホール、体育館は耐震改修の上使用。
- ・新校舎として情報処理演習室、共用教室、看護学科実習室・教室・研究室、共同研究・実験施設、ラーニングコモンズ、交流施設、大学院研究室を整備。
- ・現在利用できていないテニスコート周辺を整備、地域にも開放。

●建物規模の設定

- ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。

●既存建築物の延べ面積

約15,500㎡

●中規模新校舎整備面積想定

情報処理演習室200㎡、共用教室・看護学科教室890㎡、看護学科実習室1600㎡、看護学科研究室800㎡、共同研究・実験施設1000㎡、ラーニングコモンズ500㎡、交流施設250㎡、大学院生研究室300㎡、教員研究室300㎡、その他共用部分 計約7,600㎡を想定する。

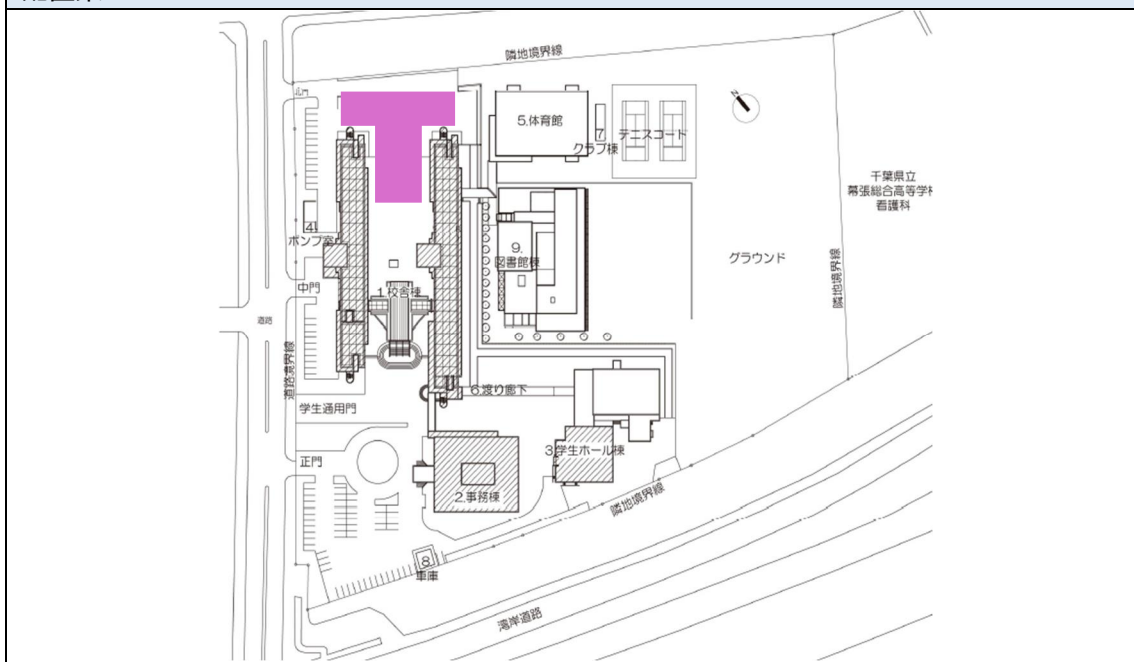
鉄筋コンクリート造6階建て(建築面積約1,300㎡)

●既存建物を使用しながらの改修のため、授業期間中の工事の実施(騒音・振動)に要注意。

●A棟・管理棟改修工事期間中は栄養学科・歯科衛生学科の仮設教室、仮設事務室の設置が必要。

●既存建物との連携の良い場所を新校舎用地とし、新校舎に看護学科移転後B棟改修工事、リハビリテーション学科移転。

配置案



ボリューム案

特徴、課題、懸念事項

- 看護学科、リハビリテーション学科は既存施設の課題をすべて解決し、充実した実習設備・機器及び十分な広さを備えた実習室・講義室等を整備することができる。
- 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。
- 歯科衛生学科、栄養学科は既存施設のため、実習室面積の拡充には限界がある。
- 建替え案と比べると、校舎が分散して各棟の連携がやや悪く、管理運営が非効率。
- A棟(歯科・栄養棟)は授業実施しながら、他棟も使用しながらの改修工事となるため、騒音や振動の発生する工事は長期休みなどに限定される。
- 中規模新校舎の建設・看護学科移転後、B棟改修工事・リハビリテーション学科移転となり、工期が長くリハビリテーション学科の移転が遅れる。

スケジュール

グラウンド側に仮設教室・事務室 設置、移転

↓

新校舎建設工事、体育館耐震改修工事、A棟・事務棟・学生ホール棟・講堂 大規模改修工事

↓

看護学科 移転

↓

B棟大規模改修工事

↓

リハビリテーション学科 移転

↓

外構工事

改修終了順に栄養学科、歯科衛生学科、事務局移転

B案 仁戸名キャンパス統合・大規模新校舎建替え

計画案の概要、規模や工事の考え方

●計画案の概要

- ・学部教育、大学院教育、地域連携・社会人教育機能をすべて仁戸名キャンパスに統合する。
- ・旧消防学校部分に大規模新校舎を建設し、旧消防学校校舎・旧医療技術大学校の校舎は解体する。
- ・仁戸名キャンパス既存建物のうち東校舎棟、研究棟は地域連携・社会人教育機能として使用、体育館は耐震改修の上使用

●建物規模の設定

- ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。

●既存建築物の延べ面積

約5,570㎡

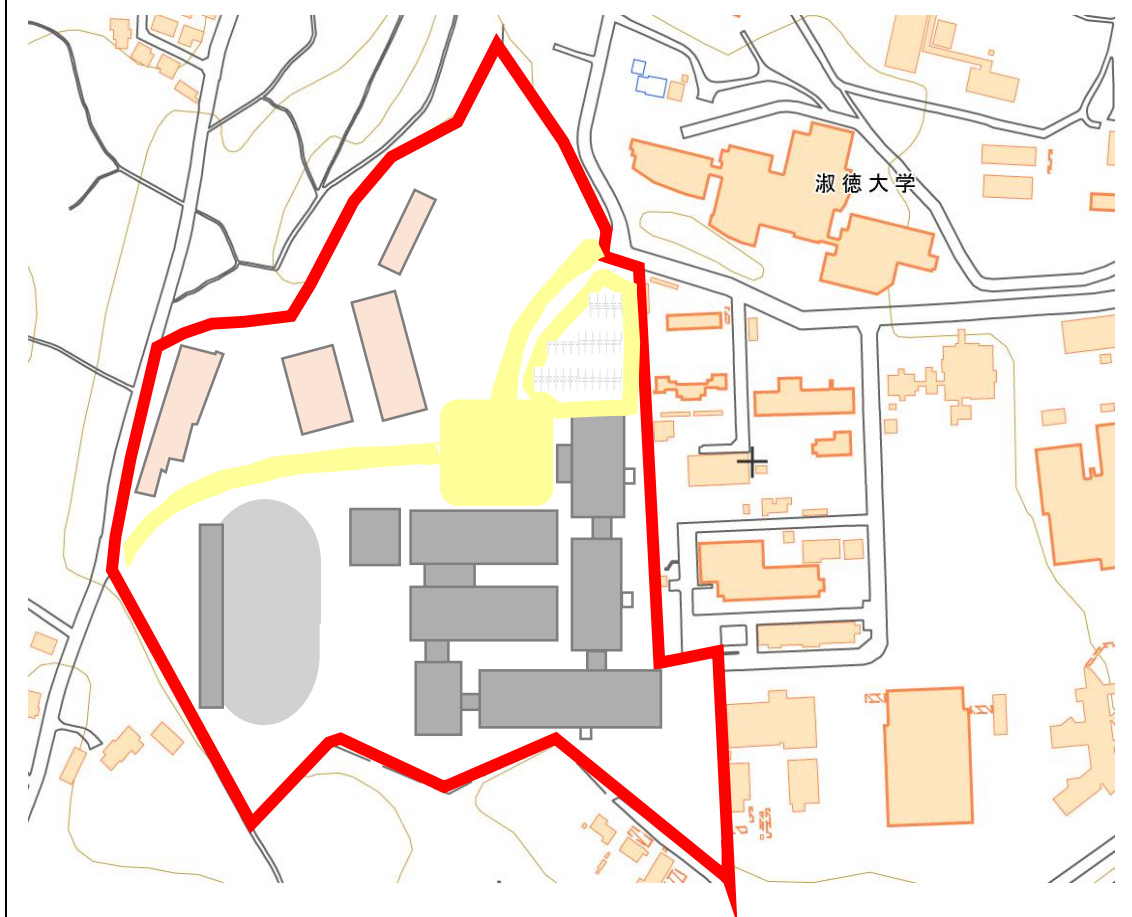
●大規模新校舎整備面積

約23,000㎡を想定する。

●既存建物を運用しながらの建替えのため、教育研究への影響が少ない場所を用地とし、現機能が維持出来るように配慮する。

旧消防学校跡地部分を大規模新校舎建設用地とし、旧医療技術大学校部分は校舎解体後跡地をグラウンドとして整備する。

配置案



ボリューム案



特徴、課題、懸念事項

- 既存建物や既存設備に影響を受けることなく設計を進めることができる。
- 既存施設の課題をすべて解決し、充実した実習設備・機器及び十分な広さを備えた実習室・講義室等を新規整備することができる。
- 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。
- 学部 of 教育研究機能、大学院機能、事務局・管理機能をまとめて新校舎に整備することにより、効率的な管理運営が可能。
- 既存施設での教育研究からの移行がスムーズ。

スケジュール

医療技術大学校、消防学校旧校舎 解体
 ↓
 新校舎建設・体育館耐震改修工事
 ↓
 全ての学科、機能 移転
 ↓
 外構工事

C案 2キャンパス現状維持・大規模改修＋中・小規模校舎新築

計画案の概要、規模や工事の考え方

●計画案の概要

- ・現状の2キャンパス利用状況を維持。
- ・老朽化した既存建物の大規模改修を行う。
- ・幕張キャンパスには看護学科の定員増に対応した施設及び大学院機能に対応した必要な設備を備えた新校舎を増築。
- ・幕張キャンパス既存建物は、基本的に既存の実習室を活用。課題である狭隘な講義室は演習室や大学院生研究室とするなど、各室の用途や間仕切りを調整。エレベーターを設置してバリアフリー対応を行う。
- ・幕張キャンパス新校舎として共用講義室・演習室、看護学科大規模教室、大学院教員研究室、共同研究・実験施設、ラーニングcommons、交流施設を整備。
- ・現在利用できていない幕張キャンパステニスコート周辺を整備、地域にも開放。
- ・仁戸名キャンパスは、既設体育館を解体し、跡地に新校舎を整備。
- ・仁戸名キャンパス新校舎には言語聴覚療法学専攻実習室・教室・教員研究室、交流施設を整備。

●建物規模の設定

- ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。

●既存建築物の延べ面積

幕張キャンパス約15,500㎡ 仁戸名キャンパス約4,450㎡

●幕張キャンパス新校舎整備面積想定

情報処理演習室200㎡、共用教室・看護学科教室890㎡、共同研究・実験施設1000㎡、教員研究室500㎡、ラーニングcommons500㎡、交流施設250㎡、その他共用部分 計約4,350㎡を想定する。

鉄筋コンクリート造6階建て(建築面積約800㎡)

●仁戸名キャンパス新校舎整備面積想定

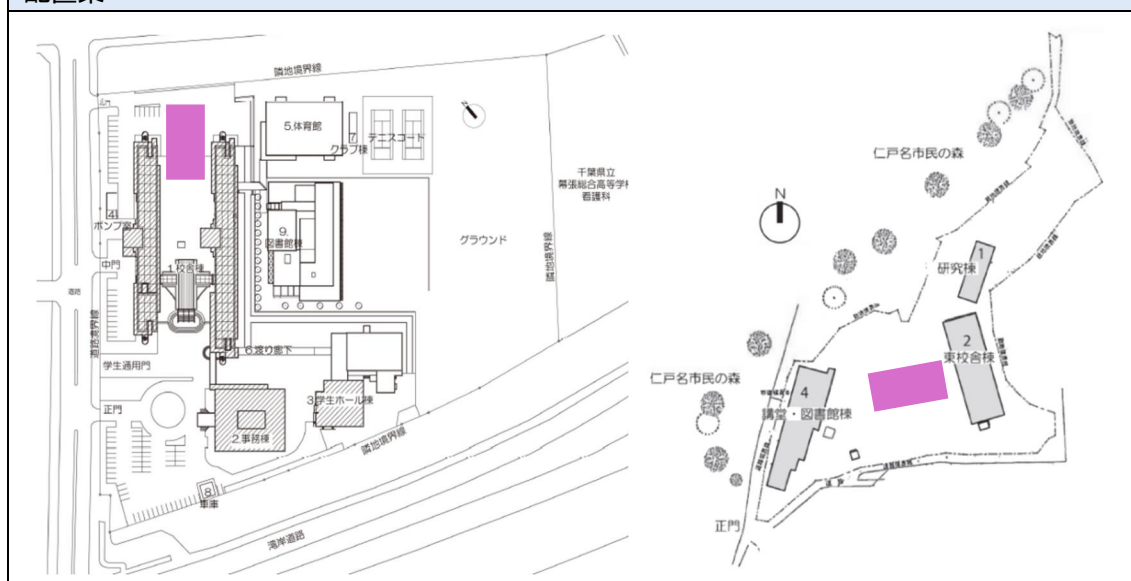
言語聴覚療法学専攻実習室500㎡、教室200㎡、教員研究室200㎡、ラーニングcommons・交流施設200㎡、その他共用部分 計約1,430㎡を想定する。

鉄筋コンクリート造2階建て(建築面積約800㎡)

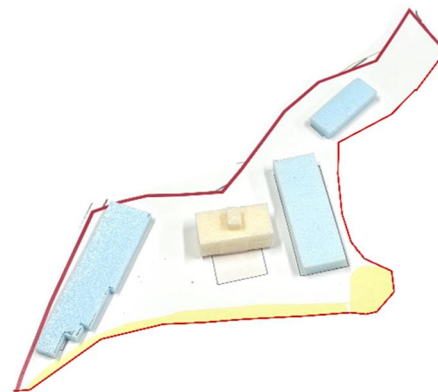
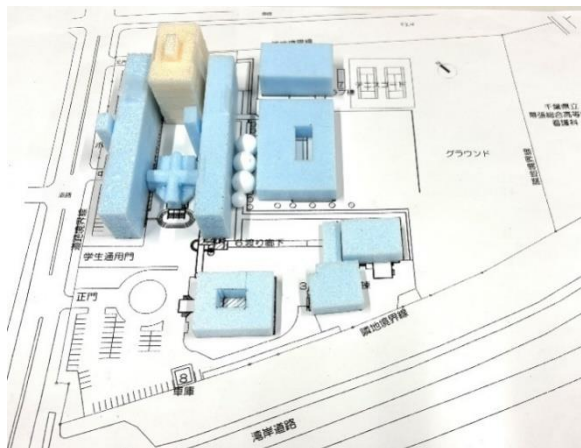
●改修工事期間中は各学科の仮設教室、仮設事務室の設置が必要。

●既存建物を使用しながらの改修のため、授業期間中の工事の実施(騒音・振動)に要注意。

配置案



ボリューム案



特徴、課題、懸念事項

- 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。
- 既設学科は既存施設を改修して活用のため、実習室面積の拡充には限界がある。
- 統合案と比べると、校地・校舎が分散して連携が悪く、管理運営が非効率。
- 授業実施しながらの改修工事となるため、騒音や振動の発生する工事は長期休みなどに限定される。

スケジュール

【幕張キャンパス】

グラウンド側に仮設教室・事務室 設置、移転



新校舎建設工事、体育館耐震改修工事、
A棟・B棟・事務棟・学生ホール棟・講堂 順次 大規模改修工事



改修終了順に看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、事務局移転

【仁戸名キャンパス】

体育館解体



体育館跡地に仮設教室 設置



東校舎、図書館・講堂棟改修工事



リハビリテーション学科供用開始
体育館跡地に新校舎建設

D—1案 2キャンパス再編・学部幕張キャンパス統合・大規模校舎へ建替え

大学院サテライトキャンパス及び現任教育機能を仁戸名キャンパスへ

規模や工事の考え方

●計画案の概要

- ・学部教育を幕張キャンパスに統合し、機能強化及び大学院教育機能を追加する。
- ・仁戸名キャンパス既存校舎は地域連携・社会人教育機能として大学院サテライト及び現任教員機関として活用。
- ・幕張キャンパスのグラウンド部分に大規模新校舎を建設し、アプローチ部分に位置する更衣室棟、老朽化した教育棟、管理棟、学生ホール棟、講堂は解体する(A-1案と同様)。
- ・幕張キャンパス既存建物のうち図書館棟は図書館及び機能強化センター機能として活用、体育館は耐震改修の上活用
- ・仁戸名キャンパス既存建物は必要最低限の改修を行い活用。耐用年数超の体育館は解体して駐車場を整備。

●建物規模の設定

- ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。

●既存建築物の延べ面積

幕張キャンパス 図書館棟約2,331㎡+体育館約1,108㎡=約3,440㎡

仁戸名キャンパス約4,450㎡

●大規模新校舎整備面積

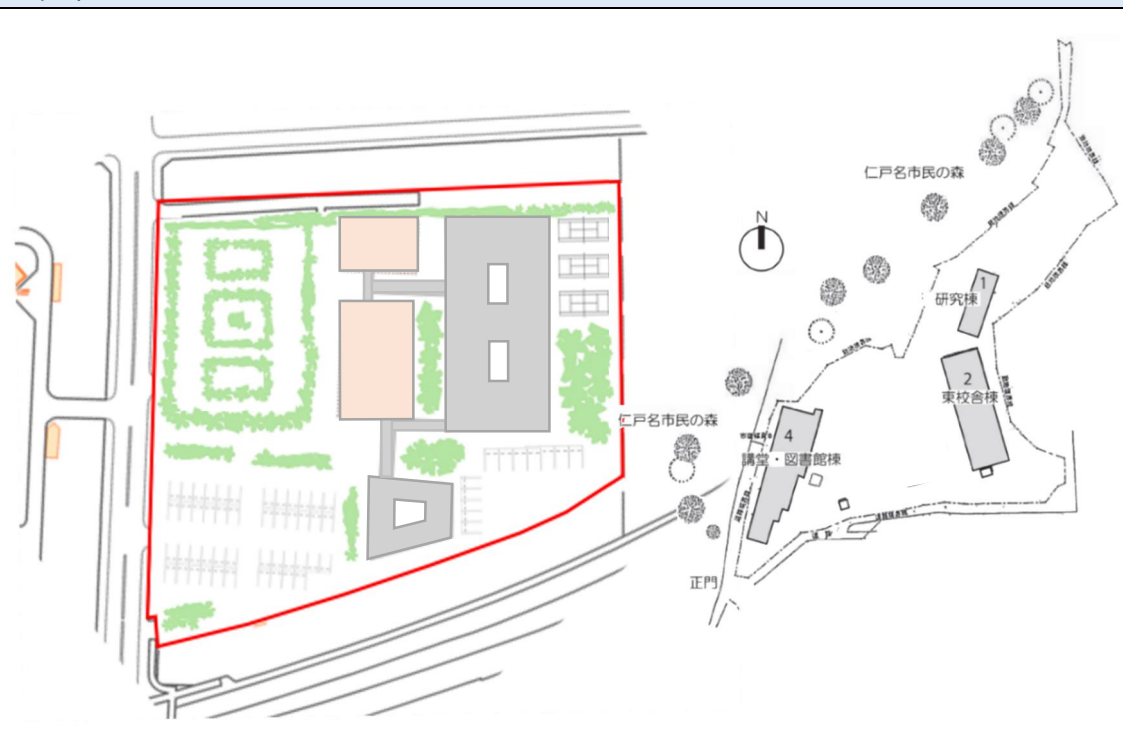
約22,330㎡を想定する。

鉄筋コンクリート4階建て(建築面積約6,000㎡)

●既存建物を運用しながらの建替えのため、教育研究への影響が少ない場所を用地とし、現機能が維持出来るように配慮する。

学生ホール棟、講堂解体跡地及びグラウンド部分を大規模新校舎建設用地とし、教育棟・管理棟解体後跡地を空地やグラウンドとして整備する。

配置案



特徴、課題、懸念事項
● 既存施設の課題をすべて解決し、充実した実習設備・機器及び十分な広さを備えた実習室・講義室等を新規整備することができる。 ● 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。 ● 学部 of 教育研究機能、大学院機能、事務局・管理機能をまとめて新校舎に整備することにより、効率的な管理運営が可能。 ● 既存施設での教育研究からの移行がスムーズ。 ● 新校舎の建設場所が奥まることで、校舎へのアプローチに工夫が必要。 ● 車道に接する部分に空地が多くなり、将来的な計画活用の余地を残しつつ地域に開かれたキャンパス環境の整備が可能。
スケジュール
【幕張キャンパス】 学生ホール棟、講堂、更衣室棟 解体（教育棟側に仮設更衣室・教室設置） ↓ 新校舎（大規模棟・中規模棟）建設・体育館耐震改修工事 ↓ 全ての学科、機能 移転 ↓ 教育棟（A棟、B棟）、事務棟 解体 ↓ 外構工事 【仁戸名キャンパス】 体育館解体、東校舎改修工事

D-2案 2キャンパス再編・学部幕張キャンパス統合・現校舎大規模改修＋中規模校舎新築

大学院サテライトキャンパス及び現任教育機能を仁戸名キャンパスへ

規模や工事の考え方

●計画案の概要

- ・学部教育を幕張キャンパスに統合し、機能強化及び大学院教育機能を追加する。
- ・仁戸名キャンパス既存校舎は地域連携・社会人教育機能として大学院サテライト及び現任教育機関として活用。
- ・幕張キャンパスは老朽化した既存建物の大規模改修を行い、幕張キャンパスの新たな機能である大学院及びリハビリテーション学科の教育研究及び看護学科の定員増に対応し、必要な設備を備えた新校舎を増築(A-2案と同様)。
- ・幕張キャンパス既存建物のうちA棟(歯科・栄養棟)は、定員増がないため基本的に既存の実習室を活用。課題である狭隘な講義室は大学院生研究室とするなど、各室の用途や間仕切りを調整。エレベーターを設置してバリアフリー対応を行う。
- ・B棟(看護棟)は、共用講義室・演習室及びリハビリテーション学科の実習室・研究室、大学院生研究室へ改修。図書館棟は図書館及び機能強化センター機能として使用、管理棟、講堂、学生ホール、体育館は耐震改修の上使用。
- ・新校舎として共用講義室・演習室、看護学科実習室・教室・研究室、共同実験施設、ラーニングcommons、交流施設を整備。
- ・現在利用できていない幕張キャンパステニスコート周辺を整備、地域にも開放。
- ・仁戸名キャンパス既存建物は必要な改修を行い活用。耐用年数超の体育館は解体して駐車場を整備。

●建物規模の設定

- ・教育研究機能強化を加えて必要となる建物面積規模を想定。

●既存建築物の延べ面積

幕張キャンパス約15,500㎡ 仁戸名キャンパス約4,450㎡

●中規模新校舎整備面積想定

共用講義室・演習室200㎡ 看護学科実習室1,600㎡、看護学科教室890㎡、看護学科研究室800㎡、共同実験施設100㎡、ラーニングcommons500㎡、交流施設250㎡、その他共用部分 計約7,600㎡を想定する。

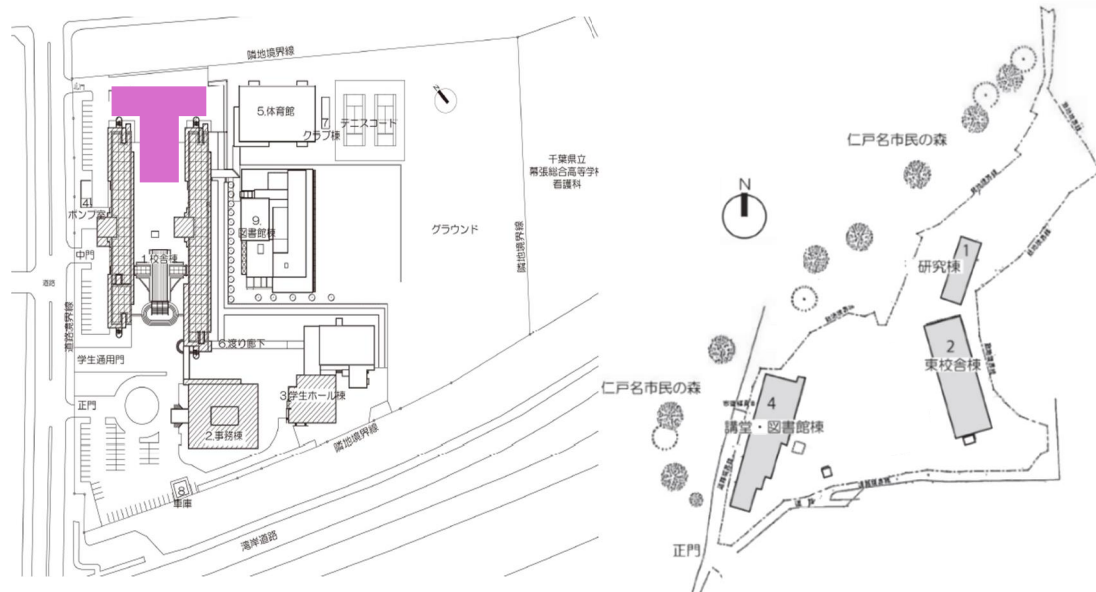
鉄筋コンクリート造4階建て(建築面積約1,300㎡)

●既存建物を使用しながらの改修のため、授業期間中の工事の実施(騒音・振動)に要注意。

●A棟・管理棟改修工事期間中は栄養学科・歯科衛生学科の仮設教室、仮設事務室の設置が必要。

●既存建物との連携の良い場所を新校舎用地とし、新校舎に看護学科移転後B棟改修工事、リハビリテーション学科移転。

配置案



特徴、課題、懸念事項

- 看護学科、リハビリテーション学科は既存施設の課題をすべて解決し、充実した実習設備・機器及び十分な広さを備えた実習室・講義室等を整備することができる。
- 最新の実験設備・機器を備えた共同研究・実験施設を新規整備することにより、教員が高度な研究活動を推進できる。
- 歯科衛生学科、栄養学科は既存施設のため、実習室面積の拡充には限界がある。
- 建替え案と比べると、校舎が分散して各棟の連携がやや悪く、管理運営が非効率。
- A棟(歯科・栄養棟)は授業実施しながら、他棟も使用しながらの改修工事となるため、騒音や振動の発生する工事は長期休みなどに限定される。
- 中規模新校舎の建設後、B棟改修工事となり、工期が長くリハビリテーション学科の移転が遅れる。

スケジュール

【幕張キャンパス】

グラウンド側に仮設教室・事務室 設置、移転

新校舎建設工事、体育館耐震改修工事、A棟・事務棟・学生ホール棟・講堂 大規模改修工事

看護学科 移転

改修終了順に栄養学科、歯科衛生学科、事務局移転

B棟大規模改修工事

リハビリテーション学科 移転

外構工事

【仁戸名キャンパス】

体育館解体、東校舎改修工事